

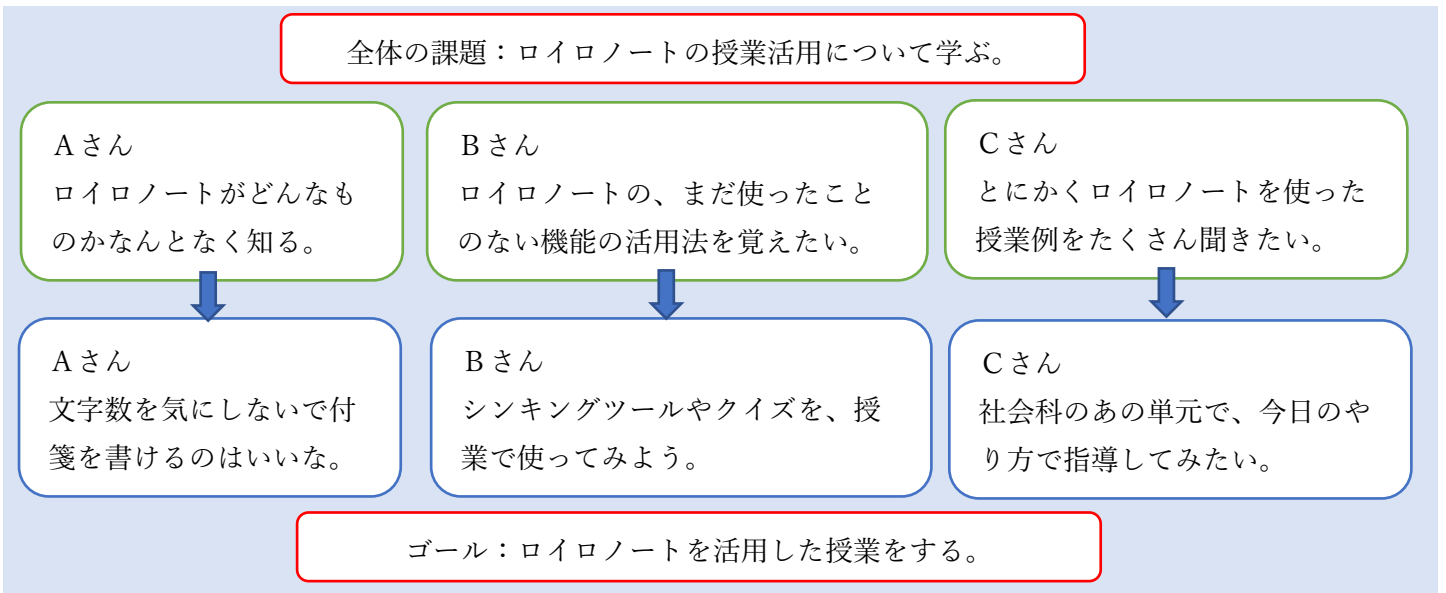
研修だより

No.4

「個別目標」をもつことのよさとは？

私たちは大人なので、何かできるようになりたいと思ったときに、「今回は、これくらいできるようになる。」とスモールステップの目標を設定したり、段階（レベル）を定めたりすることを、無意識に行っていると思います。気持ちよく生活するために必要な力なので、当たり前に行っているのだと思います。

例えば、ロイロノートの研修があったとします。



こんな感じで研修を受けていますよね。これがすごく大事なことです！全員が、「ロイロノートの授業活用について学ぶ！！」という思いで受講するのではなく、与えられた課題から、自分はこれくらいを知りたい、できるようになりたいと心に浮かべていると思います。Aさんの向上心が低いわけでも、Cさんのレベルが高いわけでもなく、ロイロノートの授業活用について、それぞれが力を向上させたいという方向性は同じです。ゴールも同じです。もし、これが、個々の思いをもたずに受講したとしたら、受講時間をぼぉ〜と過ごし、あまり身にならないものになってしまうように感じます。

子どもたちを指導していると、“50m14秒台なのに、9秒をきる！”とか、“3mしか泳げないのに、息継ぎクロールで25mを泳ぐ”などと次の時間の目標を上げ、「その気持ちは素敵だけれど、それまでの段階があるのに」と思うことがありますよね。そのスモールステップを特別支援担当の先生は毎時間のように設定し、通常級の先生も学級の児童の実態に寄り添って提示して授業を行っていたわけですが、いつかは、子どもたち自身が「自分なりの目標」を設定する力を身に付けなくてははいけません。今年度の研修は、そういう生きていくために必要な力を授業を通して育むのだというイメージで行うと、あまり難しく考えずに取り組めるかと思っています。

単元目標：小数÷整数の計算ができる。

個別目標

Aさん
ミスなく計算できるよう
になりたい。

Bさん
計算の仕組みを図で表せるよう
になりたい。

Cさん
小数÷整数の難しい問題も解け
るようになりたい。

日々の実感。“できた、わかった”のふりかえり

小数点の打ち忘れ
忘れに気をつけ

九九を使って計算する
ことがわかった。

スキルの2問、正確に
解くことができた。

検算の仕方が
わかった。

スキルの半分、時間内
に計算できた。

3年のときのわり算と考え
方は同じだと気付いた。

教科書の図をまねして、違
う問題でも図がかけた。

数直線だとかけるけれど、食べ物や飲
み物のときにうまく図にできない。

〇〇さんと考えたら、飲
み物でも図にできた。

計算スキル全問正解！

友達がミスなく計算で
きるように説明でき
た。

先生が用意してくれた
難問3問中、1問解け
なかった…。悔しい。

解き方のコツがわかっ
た。〇〇さんと一緒
に考えたらわかった。

“できた、わかった、成長した”を実感

ミスが段々と減った。た
まに小数点を打ち忘れ
るから必ず見直したい。

友達に図を見せたら「意味がやっとわかっ
た」と言われてうれしかった。はじめは難し
いと思ったけれど図にかけるようになった。

肉とか薬とか、実際のもの
で計算してみたい。家庭学
習で今度やってみる。

ゴール：小数÷整数の計算ができる。

「学ぶ楽しさ」を実感することを目指して

このふりかえりを必ずしもワークシートに書くとか、ロイロノートやformに提出させるとか、そういうことではなく、子どもの心にこういう思いや変化を与えられる実践を目指していけたら、と考えています。

私自身の反省ですが、今までの一斉指導では、つい“中の下”あたりに響くような授業を設定してしまうことが多くはなかったでしょうか。「個別目標」を子どもたちがもつことで、苦手な子も得意な子も、輝きどころのある学習活動になると思います。どうやらせるかは、研修で深めていくとして、どの子にとっても「勉強して役に立った」とか「できるようになって嬉しかった」とか、「学ぶ楽しさ」をじわじわと感じられる日々の授業を積み重ねていくことが、今年度の研究の主（または種）になればいいなと思っています。